

1. 講演概要

スイス、アメリカ、ケニアやバングラデシュなどでの勤務経験がある獣医学の専門家である山家又祐さんに経験談をわかりやすく語って頂きます。『西郷どんの銅像を鹿児島に作った彫刻家は東京・渋谷駅前に初代・ハチ公像を作った安藤照氏でした。西郷どんもハチ公も罹っていた蚊が媒介するフィラリア症と違って、高病原性鳥インフルエンザは渡り鳥により世界の各地に伝播されるので、スケールのはるかに大きい広がり方をします。でも、渡り鳥よりももっと広範囲に移動をするのは人間です。ヒトが感染源になってヒトからヒトへ飛沫感染する病気が現れると、丁度今から100年前の1918年に起こったスペインかぜのような大惨事になりかねません。同じブタ由来のインフルエンザがインドなどでくすぶっているとき、平昌オリンピック前に韓国で高病原性鳥インフルエンザが猛威をふるって専門家をはらはらさせましたが、なんとか無事に済みました。2年後の東京オリンピックに向けて、日本を訪れる観光客は4000万人に迫るのではないかとされています。正しい情報に基づいて慌てず騒がず乗り切りたいものです。』と知っておくためになる感染症についてわかりやすく語って頂きます。

2. 講師プロフィール

山家 又祐（やまげ またすけ）

出身地：志摩市、現在はつくば市在住

専門：熱帯地域の風土病であるカラ・アザールの病原体リーシュマニアやアフリカ眠り病の病原体トリパノソーマの分子生物学的解析、アフリカの牛のダニ媒介性感染症・東海岸熱（イースト・コースト・フィーバー）の新規ワクチン開発、高病原性鳥インフルエンザの監視・防疫・疫学。

講演実績：東京大学、憲政記念館、川喜田研究所 KJ 法本部、その他多数
経歴：

- 1978年 山口大学 獣医学科卒業
- 1980年 東京農工大学大学院（獣医学専攻）修了
- 1980年 東京大学 医科学研究所 熱帯病研修
- 1981年 東京大学 大学院医学研究科博士課程（医動物学）に在籍（1985年 退学）しながらスイスに留学
- 1994年 スイス・ベルン大学大学院理学研究科博士課程（分子生物学）修了（Ph.D）
- 1996年 米国立衛生研究所 NIH（ワシントン DC 郊外ベセスダ）にてフォガーティ・フェローとしてリーシュマニアの遺伝子解析の研究に従事
- 2000年 日本学術振興会招聘研究員として東京大学医科学研究所にてマラリア遺伝子解析の研究
- 2001年 米国農務省 USDA（ワシントン DC 郊外ベルツヴィレ）にてニワトリの寄生虫病の研究
- 2002年 ケニア・ナイロビ国際家畜研究所 ILRI にて国際チームで分子生物学者としてダニ媒介性のウシ感染症・東海岸熱の新規ワクチン開発に参画
- 2006年 国際獣疫事務局 OIE アジア太平洋事務所（東京）にて東アジアにおける高病原性鳥インフルエンザの防疫プロジェクトに参画
- 2009年 国際連合 食糧農業機関 FAO（本部ローマ）よりバングラデシュ・ダッカの越境性動物病緊急センター ECTAD に赴任、シニア・テクニカル・コーディネーターとして高病原性鳥インフルエンザの防疫・監視に従事し、バングラデシュ政府・漁業畜産省畜産普及局 DLS ヘアドバイス役を務める
- 2015年 帰国

